

建替えへの期待 (その1)



鳳小児科の歩み
 鳳の沿革では、1996年鳳東町に診療所設立。2年同地で病院化(80床)。1981年現在の鳳南町に病院新築移転。1994年(31年前)岡本が赴任。1995年阪神大震災。1996年2月現タンポポ薬局に鳳こ

ども診療所が新築移転(小児科外来十住診療部)。同年7月(病原性大腸菌O157による)堺市学童集団下痢症が発生。2009年鳳病院は病棟を総合病院に移行し、鳳クリニックに。同年10月新型インフルエンザ(H1N1)が大流行、小児科+往診部が鳳クリニック内へ移転。2017年中川医師が着任し、小児科常勤2人態勢に。2024年中川医師が開業…。当初から現在に至るまで、
 同仁会医師や近畿大学小児科等のパート医師に支えられ、小児科一般外来と2つの専門外来(神経発達・障害児者、アレルギー)を軸に展開してきました。当初は鳳病院の2階で一般外来と専門外来(以下敬称略。心身症・沼島真砂・大野啓子、神経・発達・金森有慶)、1994年以降はアレルギー・真鍋穂・福永和佳代・小西芳樹・田中充・岡本、神経・発達(鳳小児科医師・武内一、中川元、腎臓・春本常雄(東大阪生協病院)が担当しました。 障害児者の往診、保育園の園医(ひまわり、みんなの保育園)、堺市の保健センターの乳幼児健診、百舌鳥支援学校校医、泉州看護専門学校小児科看護学、鳳中学校校医、看護学生実習外来受け入れ(泉州看護、暁光高校看護科)なども行いました。1996年のO157による集団下痢症、2009年のインフルエンザ大流行の時は大変でした。(鳳小児科医師・ひまわり会理事長・友の会福泉支部世話人 岡本 裕宏)

異文化コミュニケーションカンファレンス クロストーク vol.2 開催!



3月4日に第2回異文化コミュニケーションカンファレンスクロストークを開催しました。関東からご参加いただいた方も含めて30人ほどが集まりました。
 テーマは「自分らしくこの地域でくらしにくく、まちに開くケアとアートの交わり」ということで、まずはオープンするコミュニケーションスペース『みみっば』の説明に続き、奥内科・在宅クリニック院長の奥知久さんからは「おみくじ」ならぬ「おじくじ」をみんなで引いてみましょうと声掛けがありました。自分の願いごと、待

人、失物、恋愛など、従来おみくじで占われる項目とさまざまな質問が書かれていて、偶然隣に居合わせた方とシェアしながら、自分の旅立ちはどこで迎えたいか?など自然と話が弾みました。奥さんは地域の患者さんとも「冥土喫茶」を開催されて、普段から自分の将来のことを話せる場を作られています。
 公益財団法人堺市文化振興財団の常盤さんから協和町にある、にしのこまんぷく食堂で子どもさんとアーティストと一緒に、「ゴミを材料とした芸術祭を作られたこと、ご自身の主宰されて

いるアマチュアオーケストラでは地域の中学生と演奏者で、聴くだけではなく一緒に演奏会を作っていくことが地域と協働することになった、とお話がありました。
 後半には副院長の矢亮医師も加わり、フロアからも質問が飛び交い、クロストークが繰り広げられました。常盤さんからは「親も知り得ない、子どもの秘密基地。居場所が存在し、学校と家庭以外の安心できる場所を文化や芸術で作れたらいいですね」。奥先生からは「すぐには直結しなくても、大人が楽しみながら地域とコミュニケ

ーションすることで、子どもはその姿をみているし、将来的にファンは増えます。だから僕も取り組んでいる」と力強いお言葉をいただきました。
 みみっばに集う人々をまき込みながら、またスタップもまき込まれながら活動につながることを期待しています、とお二人からお言葉をいただきました。詳しくはまた「note」を作成いたしますのでお待ちください!



- ### 座長賞
- 2支部共同サークル 健康友の会みみはら
 新金岡支部 安田由紀子
 - 支部結成から8年かけて4課題の達成を目指した活動 健康友の会みみはら
 もず支部 中島ナホミ
 - 在宅支援を通じてみる「夫婦の絆」
 鳳在宅介護支援センター 介護支援専門員 松田 勝子
 あきらめかけた巨大瘻瘡が治った!多職種連携とチームによるケアの報告
 耳原訪問看護ステーション 看護師 小林 知子
 - 大幅にADL低下を認めた患者のリハビリテーションと栄養に対するアプローチ
 耳原総合病院7階病棟 看護師 竹本 実佑
 - 精神遅滞、日本語の話せない外国人、精神疾患合併の妊産褥婦への育児カートの活用
 耳原総合病院6階病棟 助産師 岡島芽重実
 - エキスパート研修について
 耳原総合病院医局事務課 事務 松林 咲希
 - あつまれ!未来の医療・介護従事者さんへ高生校生のための医療・介護のお仕事体験フェア
 同仁会採用育成部 事務 手島 恵子

大阪民医連学術運動交流集会 講演で話に引き込まれ 分科会では皆の協力を実感



今年、学術運動交流集会の実行委員を務めさせていたいただいた山中です。2025年2月11日に大阪民医連学術運動交流集会が2020年以降の現地で開催されました。午前中は、大阪公立大 学医学部附属病院の医療の質・安全管理部病院長 授/部長の山口(中上)悦子先生による記念講演でした。
 今回の学術運動交流集会のテーマが「心理的安全性」について認め合える社会が未来を変える!」なので山口(中上)先生の「本当は怖い?!心理的安全性」の発表はテーマに沿った講演だったと感じました。
 心理的安全性は良い職場環境や人間関係を構築する上で重要で、安全性が高い職場や人間関係は仕事の効率にも関わり、そいつた人間関係を作り仕事にも生かそうと感しました。講演の後半にはロールプレイもあり「なるほどなあ」と、より考えることができました。お話が上手く後半になればなるほど先生の話に夢中になっていきました。私自身あまりこいう講演を聞くことがなかったのでもいい機会になったと思います。
 午後からは各分科会に分かれ色々な演題発表が行われました。今回は21分科会に分かれ、222演題、1250人以上の参加者が来られました。私も第6分科会の座長を担当し、とても緊張しましたが、皆さんの発表を聞き、皆さんの発表をしてるんだと感じ、より協力をして利用者さんに関わりをもつていかないといけないと感じました。
 今回参加された皆さんお疲れさまでした。今年参加できなかった方はぜひ来年に参加してみてください。
 (介護老人保健施設 みみはら 山中 剛)